

巻頭特集

苦境を乗り越えて前を向く、高校生を応援!

誌面 de 文化祭

新型コロナウイルス感染症拡大が大きな脅威をもたらした今年、
高校生の部活動も規模の縮小を余儀なくされました。
目標としていた大会やコンテスト、
展示会が中止・変更になるなどの苦境に負けず
前を向いて互いを高め合う高校生の部活動を紹介します。

スマホをかざせば
動画が見える! ① ② フリモAR®使用方法

App Store®、Playストアで『フリモAR』を検索

- ① フリモARアプリをダウンロードして起動
- ② マークがついた写真にカメラをかざすとスクリーンがはじまります
※写真の向きにあわせてカメラをかざしてください
- ③ スキャンに成功すると動画がスタート!



※ Apple および Apple ロゴは米国その他の登録された Apple Inc. の商標です。App Store® は Apple Inc. のサービスマークです。
※ Google Play および Google Play ロゴは Google Inc. の商標です。

地域とも積極的にコラボ 作品制作を通して人間力を磨く

松阪工業高等学校 美術部

松阪市殿町1417

☎0598-21-5313

平成6年に美術同好会として設立し、平成9年に部に昇格した美術部。「制作を通して技術や個性、コミュニケーションスキルなど必要な能力や思考を身につけること」を部の目標とし、三重県高等学校総合文化祭や南勢地区高等学校美術展への出品のほか、みえこどもの城「椅子プロジェクト」などへの参加や店舗のシャッターペイント、いちご農園の看板デザインなど、地域とも積極的に関わっています。作品制作を通して、発想力や創造力、観察力を磨く生徒たち。「納得いくまで諦めずに制作に取り組み姿勢や、講習会などを通じて意見を出し合い、部員同士が互いを高め合っていく様子に生徒の成長を感じます」と顧問の一人、植村彰先生は話します。

「自由な雰囲気や部の魅力」と話す部長の田中創太さんは、「二年生のころに難しいと感じていたことが案にできるようなり、自身の成長を感じます。展示会に出品する作品をみんなで作ってきたの思い出」と高校生活を振り返ります。過去には、プラザ洞津や東海労働金庫松阪支店、第三銀行へ展示作品を提供してきた美術部。今後どんな作品が地域を彩るのか、楽しみです。



①活動は平日の放課後など。自由な雰囲気の中、作品制作に没頭する。部室内には、絵のほか大きな立体作品も並ぶ。ARでは生徒の作品の一部紹介! ②「随時部員募集中!」と呼びかける部長の田中創太さん(左)と、顧問の植村彰先生

全国高等学校総合文化祭連続出場 仲間と切磋琢磨し、乗り越える

松阪高等学校 文芸部

松阪市垣鼻町1664

☎0598-21-3511

8人が所属し、小説や詩などの制作に励む文芸部。部員たちは、意見や感想を言い合いながら互いに切磋琢磨しています。手がけた作品は、年4回発行の部誌「さわらび」に掲載。今年9月開催の文化祭では瞬間に品薄になり、再版が決定しました。「締め切りに追われて大変ですが、励ましあって乗り越えたり仲間と手作業で製本したりするのが楽しい」と部長の米山日向子さんはほほ笑みます。

文芸誌「高校文芸みえ」での入選・掲載が部の目標。上位に入賞すれば、三重県代表として全国高等学校総合文化祭への参加資格が得られます。部は2年連続で出場を獲得。残念ながら今大会は新型コロナウイルス感染症の影響のためオンライン上での実施となりましたが、公式サイトで米山さんの作品を読むことができます(10月末まで)。「高校文芸みえ」入賞の夢が叶いました。これからは「読者として『さわらび』を読むのを楽しみにしています」と話す米山さんは、「皆のおかげで、入部した時には薄かった部誌がホッチキスで留められないぐらい分厚くなったことが印象に残っています」と思い出を明かしてくれました。



①ARでは部誌制作の様子を紹介。「新しい分野や領域に挑み、ものにしていく様は実にたくましい」と顧問の中津悟先生。②新部長の中村うたさん(左)と、米山日向子さん。米山さんの作品は、「WEB SOUBUN」でチェック!

先輩の思いを胸に 更なる活躍を誓う新チーム

松阪商業高等学校 ギター部

松阪市豊原町1600

☎0598-28-3011

「ギターで学び、ギターで育む」を活動理念に、高齢者施設や福祉施設、交通安全フェスタなどで訪問演奏をするギター部。部長の小川素直さんは、「イベントでの演奏はお客さまとの距離が近く、楽しんでくださっている様子が伝わり、とてもうれしいです」とやりがいを話します。入部のきっかけは、クラブ紹介で見たギターの合奏。部ではさまざまな種類のギター演奏にチャレンジできることから、「自分も挑戦したい」と部に仲間入りしました。「うまく弾けなくて落ち込んだり苦しんだりする分、できたときは達成感があり、成長を感じます」とほほ笑みます。

毎年7月開催の全国大会をはじめ、地域での校外演奏も中止となるなど、活動縮小を余儀なくされたギター部。毎年多くの来場者が集まる「発表演奏会」は、来場を保護者に限定してクラギ文化ホールで開催しました(演奏会の様子はウェブで配信予定)。「新型コロナウイルス感染症の影響で大会に出られなかった先輩の分まで頑張つて、全国大会に行きたい」と先を見据える小川さん。先輩の思いを胸に、ギターの演奏により力が入ります。



①ARで、演奏風景をチェック!演奏は松阪市のYouTubeチャンネルでも紹介されている。②左から福田清徳先生、部長の小川素直さん、川合正宏先生。「組織のひとりとして物事に関わることを知り、責任感と協調性を育ててほしい」と福田先生は生徒の成長を見守る

大会・行事が中止になっても 積極的に活動を続ける

相可高等学校 放送部

多気郡多気町相可50

☎0598-38-2811

毎年7月に開催される「NHK杯全国高校放送コンテスト全国大会」出場を目標に掲げる放送部。部を率いる部長の谷口諒河さんは、「もともと映像づくりが好きで、より専門的な知識を学びたくて」と入部のきっかけを話します。部は、放課後と土曜日に活動。なかでも発声練習は毎度欠かさず力を入れていきます。「上手く声が出せなかったり、指摘を受けたらと悔しいですが、改善すべき点を教えてもらうなどして、次に生かせるように頑張っています」と話します。校内行事での放送はもちろん、行政チャンネル(多気町)への番組の提供、人権フェスティバルでの収録協力など、学校外でも活動を広げています。

例年は、コンテストへの出場や体育祭でのアナウンスなどで多忙を極めますが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響により活動の場をなくしています。本番を経験する機会こそないものの、実力をつけるべく、来年に向けて積極的に技術を磨く部員たち。「部活動を通して広い視野で全体を見渡せる人材に育ってもらいたい」と顧問を務める久保田浩先生はエールを送ります。



①3人で活動する放送部。発声練習を習慣とし日々の訓練を大切にしている。「先生方や友達に褒められたときに成長を感じる」と部長の谷口諒河さん。②谷口さん(左)と顧問の久保田浩先生

心情を映し出す音 辛いときこそ、前を向いて

三重高等学校 吹奏楽部

松阪市久保町1232

☎0598-29-2959

開校と同時に活動がスタートした吹奏楽部。校内行事のほか、コンクールや演奏会、野球部応援、イベント参加など通常はさまざまな大会や行事に参加しますが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響により活動はすべて中止・変更。今は音楽に向き合い、たくさんの楽曲を演奏することを重点的に活動しています。「音楽は、モチベーションや集中力、精神的な気高さに至るまで、さまざまな心情が音として現れます。楽器の演奏技術はもちろん、気持ちによる音の変化に、生徒の成長を感じます」と顧問の川北浩史先生は話します。

部をまとめるのは部長の湯野綾音さん。「発表の場がなく、「自分は何のために練習しているのだろう」と思う時もありますが、こんな状況下だからこそパワーアップできると信じています。吹奏楽の魅力は皆が力を合わせてひとつの音楽を奏でること。部員全員で前を向き、笑顔絶やさず全力でやりきれぬ部活にしたい」と先を見据えます。数々の人を勇気づけ、笑顔にしてきた吹奏楽部の音楽。一日も早く地域に届く日を願つてやみません。



①発表の場が減ってしまった分、音楽と向き合う生徒たち。②顧問の川北浩史先生(左)と部長の湯野綾音さん。川北先生は、「一度始めたことを諦めずとことん突き詰めている人になってほしい」と生徒を見守る